

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～6組

教科担当者：（1組：福永）（2組：福永）（3組：福永）（4組：吉岡）（5組：吉岡）（6組：吉岡）

使用教科書：新現代の国語（桐原書店）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 現代の国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱ひ方などの国語の知識や技能を養う。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		語	書	読					
<言葉に表す> 【知識及び技能】 論証や学術的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで筆者の主張を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「ふしぎと人生」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 心理学者である筆者ならではの主張を読み取り、新学期で他者との関わりの変化するこの時期に、自分とその人間関係について考えを深めようとしている。	○	○	○	6
<発見への誘い> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 問題について、多面的な視点で読み、論理の展開を批判的に捉え、論点を明確にしている。 【学びに向かう力、人間性等】 本文の理解を踏まえたうえで、「読書」についての見方を深め、説明しようとしている。	・教材 教科書「読書は必要か？」および副教材 ・一人1台端末の活用 等		○	○	【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで読書における具体と抽象の関係性や、筆者の論の進め方を捉え、学習課題に沿って見えないものへと思考を広げようとしている。	○	○	○	7
定期考査						○	○		1
<論理を組み立てる> 【知識及び技能】 小説や文学的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、登場人物の心理の変化を的確に捉え、作品の主題を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで作者の提示した主題を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「羅生門」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 小説作品を読み、優れた表現や登場人物の気持ちを読み取り、今後も文学的作品ひいては読書の楽しさを味わおうとしている。	○	○	○	7
<問いを立てる> 【知識及び技能】 論証や学術的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで筆者の主張を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「サイボーグとクローン」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 文章以外の多様なメディアから得た情報を文章化できる。 【学びに向かう力、人間性等】 発展する現代科学の持つ、新たな問題について理解し、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	○	○	○	8
定期考査						○	○		1

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：吉岡） （2組：吉岡） （3組：吉岡） （4組：黒岩） （5組：黒岩） （6組：黒岩）
 使用教科書：探求言語文化（桐原書店）

- 教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		話	書	読					
1 学 期	<歴史的仮名遣い・説話文学> 【知識及び技能】 文語の言葉遣いに慣れ、文や文章の基本的な読み方を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・教材 教科書『宇治拾遺物語』『児の空寝』『検非違使忠明のこと』および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、必要な語句の量を増やすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 説話の特徴について正確に理解し、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ることができる。	○	○	○	15
	<用言の活用> 【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 古文の基本的な文法を確認する。	・教材 教科書 および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、必要な語句の量を増やすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文語文法の基本を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで用言の使われ方を理解することができる。	○	○	○	6
	定期考査					○	○		1
	<漢文入門・故事成語> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・教材 教科書「推敲」「朝三暮四」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えて、古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 漢文の訓読に習熟し、故事成語にまつわる話を理解し、考えを深めることができる。	○	○	○	15
<随筆> 【知識及び技能】 唐詩の鑑賞を通して、我が国と中国との文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 徒然草を読み、筆者の提示した教訓について理解する。	・教材 教科書『徒然草』『つれづれなるままに』『ある人、弓射ることを習ふに』および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えて、古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 作品を読み、筆者の深い人間洞察に触れ、自らの生活に考えを巡らせる。	○	○	○	8	
定期考査					○	○		1	

年間授業計画

高等学校 令和 8 年度 1 学年 教科：外国語（英語） 科目：英語コミュニケーション1 3 単位

教科： 外国語（英語） 科目：英語コミュニケーション1
 対象学年・組： 第1学年 1組～6組
 教科担当者：(1組 加藤沙耶奈) (2組 加藤沙耶奈) (3組 加藤沙耶奈) (4組 佐野聖崇) (5組 佐野聖崇) (6組 佐野聖崇)
 使用教科書： CROWN English Communication I

教科（外国語（英語））の目標：
 ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
 ②思考力、判断力、表現力等： 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
 ③学びに向かう力、人間性等： コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 英語コミュニケーション1 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文章を理解できる。題材についての発話を聞き取ることができる。日常的・基本的な言語活動を行うことができる。	教科書で学んだ文法・語彙の知識を応用し、個人情報や身近な人の情報、買い物、地元の地理などについて、情報交換や発表ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって自己の学習を調整し言語の習得に粘り強く取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 不定詞 動名詞 関係代名詞 分詞の形容詞的用法 受動態 過去完了・過去完了進行形 関係代名詞what	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：日常的・基本的な会話や短いモノローグを聞いて、要点を捉えることができる。直接的関係がある領域であればスピーチの概要を捉えることができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉えることができ、英和辞典を参照すれば適切に読み取ることができる。教科書と関連のあるの平易な文章を、理解することができる。	○	○	○	36
	1 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
2 学期	Lesson 5～8 分詞構文 形式主語 同格 関係副詞 SCOC(=原型不定詞/分詞) seem to ~ It seems that ~ SVC(=that 節 分詞 仮定法過去 SV00(-that節疑問詞 節) 付帯状況with	○	○	やり取り ○	○	話すこと（やり取り）：自分や身近な人の情報、買い物、地元の地理などについて、情報交換ができる。直接的関係がある領域については質問に適切に回答できる。 話すこと（発表）：自分や身近な人の情報、買い物、地元の地理など、直接的関係がある領域については描写することができ、準備をしてスピーチで発表することができる。	○	○	○	42
	2 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
3 学期	Lesson 9～10 受動態の完了形 助動詞 be 過去分詞 関係代名詞の非制限用法 仮定法過去完了 used to/would 形式目的語it	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：教科書で学んだ文法や語彙を正しく使用し、直接的関係がある領域について単純で直接的な英文を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)	○	○	○	24
	学年末考査	○	○		○		○	○		1
配当時数合計										105

年間授業計画

高等学校 令和 8 年度

1 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 論理表現1

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 論理表現1

対象学年・組： 第1学年 1組～6組

教科担当者：（1組 佐野聖崇 ）（2組 佐野聖崇 ）（3組 渡邊敦子 ）（4組 渡邊敦子 ）（5組 大和田浩次 ）（6組 渡邊敦子 ）

使用教科書： FACTBOOK English Logic and Expression 1

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等： 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等： コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 論理表現1 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文法・語法を十分に理解している。平易な発話を聞き取り要点を理解できる。伝達可能な発音ができる。	教科書で学んだ知識を元に日常的・基本的な発話を聞き取り要点を理解できる。直接的関係がある領域についての英作文ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 文型 時制 助動詞	○	○	やり取り ○	○	<p>聞くこと：日常的・基本的な会話や短いモノローグを聞いて、要点を捉えることができる。直接的関係がある領域であればスピーチの概要を捉えることができる。</p> <p>読むこと：教科書の文章の要点を捉えることができ、英和辞典を参照すれば適切に読み取ることができる。教科書と関連のあるの平易な文章を、理解することができる。</p>	○	○	○	36
	発表 ○									
	1 学期定期考査	○	○		○		○			1
2 学期	Lesson 5～8 態 準動詞 関係詞	○	○	やり取り ○	○	<p>話すこと（やり取り）：自分や身近な人の情報、買い物、地元の地理などについて、情報交換ができる。直接的関係がある領域については質問に適切に応答できる。</p> <p>話すこと（発表）：自分や身近な人の情報、買い物、地元の地理など、直接的関係がある領域については描写することができ、準備をしてスピーチで発表することができる。</p>	○	○	○	42
	発表 ○									
	2 学期定期考査	○	○		○		○			1
3 学期	Lesson 9～10 比較 仮定法	○	○	やり取り ○	○	<p>聞くこと：教科書で学んだ文法や語彙を正しく使用し、直接的関係がある領域について単純で直接的な英文を作ることができる。</p> <p>(CAN-DOリストによる)</p>	○	○	○	24
	発表 ○									
	学年末考査	○	○		○		○			1
配当時数合計										105

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科 科目：化学基礎 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：吉廣由香）（2組：吉廣由香）（3組：吉廣由香）（4組：吉廣由香）（5組：吉廣由香）（6組：吉廣由香）
 使用教科書：（啓林館 化学基礎 改訂版）

教科 理科 の目標：
 【知識及び技能】観察、実験などを行い、化学の基本的な概念や原理・法則を理解する。
 【思考力、判断力、表現力等】化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察や実験を通して化学的な事物・現象に対する探究心を高め、化学の基本的な概念や原理・法則を定着させる。	問題を見だし化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、見通しを持った科学的な見方や考え方を養う。	日常生活や社会と主体的に関わり身の周りの物事・変化への関心を深め、目的意識を持って観察、実験などを行う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	単元 物質の構成 【知識及び技能】混合物の分離と抽出、単体と化合物の違い、熱運動と物質の三態を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】物質を構成する元素の検出方法について、考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について調べようとする。	・指導事項 物質の分類や混合物の分離・精製方法、また、物質をつくっている粒子の熱運動について指導する。 ・教材 同上 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】①混合物と純物質の違い、混合物の分離と抽出について、様々な手法がわかる。②元素の検出法や、単体と化合物の違いについてわかる。③粒子の熱運動と物質の三態についてわかる。 【思考・判断・表現】①混合物と純物質の違いと、混合物の分離について考えることができる。②物質を構成する元素の検出方法について、考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】①物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について調べようとする。	○	○	○	4
	単元 物質の構成粒子 【知識及び技能】原子の構造と電子配置、電子殻と価電子、イオン、周期表の周期律と元素の性質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】電子殻と電子配置、イオンの生成の仕組みを理解し考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】原子の構造、原子番号と質量数、電子殻と電子配置、イオンの生成の関係を調べようとする。	・指導事項 原子の構造や陽子、中性子、電子の性質、電子配置と周期律との関係を指導する。 ・教材 同上 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】①原子の構造と電子配置について考え、価電子が物質の性質に影響していることがわかる。②電子殻と価電子についてわかる。③イオンの生成とイオンについて理解し、価数をイオン式で表す方法がわかる。④周期表の周期律と元素の性質についてわかる。 【思考・判断・表現】①原子番号と質量数の違いを、原子の構造と関連付けて考えることができる。②電子殻と電子配置について考えることができる。③イオンの生成の仕組みを理解し、イオン式と価数について考えることができる。④周期表において、元素の性質と周期律について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】①原子の構造、原子番号と質量数の関係を調べようとする。	○	○	○	4
	単元 化学結合 【知識及び技能】イオン結合、共有結合と分子の極性、金属結合と代表的な金属、共有結合と高分子化合物、配位結合の仕組みと錯イオンについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】組成式を書き構成を考えることができる。配位結合の仕組みと錯イオンについて考えることができる。金	・指導事項 3種類の化学結合をとりあげ、それらの結合からなる物質が示す性質について指導する。 ・教材 同上 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】①イオン結合による物質の性質がわかる。②共有結合と分子の極性、電気陰性度による物質の性質の違いを理解し、分子間に働く力についてわかる。 ③共有結合の分子から出来ている様々な物質を調べ、代表的な高分子化合物についてわかる。④金属結合と代表的な金属についてわかる。 【思考・判断・表現】①イオン結合とイオン結合でできた物質について、組成式を書いて	○	○	○	12

	<p>属結合と金属の性質を考慮することができている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】原子の電子配置との関連が深い3種の化学結合について調べようとする。</p>	<p>その構成を考慮することができる。②共有結合と高分子化合物を関連付け、配位結合の仕組みと錯イオンについて考えることができている。</p> <p>③金属結合と金属の性質とその性質が起こる仕組みを、電子の動きと関連付けて考えることができている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】原子の電子配置との関連が深い3種の化学結合について調べようとする。</p>	○	○	○	○	
	定期考査		○	○			
2 学 期	<p>単元 物質と化学反応式</p> <p>【知識及び技能】アボガドロ定数、モルの定義、溶液の成分量表示、化学反応式と量的関係を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】気体や溶液の濃度の測定方法、物質量の表し方、化学変化と量的関係を考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質量、化学変化における物質の量的関係を表す方法を調べようとする。</p>	<p>・指導事項 原子や分子の質量の簡単な表し方や粒子の数で表す物質の量の単位 mol, 化学変化前後の物質の量的関係を指導する。</p> <p>・教材 同上</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】①アボガドロ数の意味と、モルの定義についてわかる。②溶液の成分の量を表す方法についてわかる。③化学変化を化学反応式によって考えることができる。④化学変化による物質の量的変化を考えることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】①粒子の量の表し方の原理を理解し、気体や溶液の濃度の測定方法について考えることができる。②アボガドロ数の意味や、モルによる物質量の表し方について考えることができる。③溶液の定義と性質について考えることができる。④化学変化と量的関係を化学反応式によって考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】①原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質量、化学変化における物質の量的関係を表す方法を調べようとする。</p>	○	○	○	20
	<p>単元 酸と塩基</p> <p>【知識及び技能】酸と塩基の性質、水の電離とpHの測定方法、中和滴定、塩の性質について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】酸と塩基の性質、水溶液の液性の強弱の仕組み、中和する反応、中和による塩の生成について考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】酸と塩基の性質や反応について、酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を調べようとする。</p>	<p>・指導事項 酸と塩基の性質や反応について学ぶ。</p> <p>・教材 同上</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】①酸と塩基の性質と価数がわかる。②水の電離とpHの測定方法についてわかる。③中和滴定による中和の量的関係についてわかる。④中和と塩、塩の性質についてわかる。</p> <p>【思考・判断・表現】①酸と塩基の性質を、水素イオンと水酸化物イオンの価数に関連付けて考えることができる。②水の電離とpHの意味を理解し、水溶液の液性の強弱の仕組みを考えることができる。③酸と塩基が打ち消しあって、中和する反応を滴定曲線に描いて考えることができる。④中和によって、塩が生成されることを考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】①酸と塩基の性質や反応について、酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を調べようとする。</p>	○	○	○	16
	定期考査		○	○			
3 学 期	<p>単元 酸化還元反応</p> <p>【知識及び技能】酸化還元反応と電子の授受、酸化数、酸化剤と還元剤、金属のイオン化傾向と金属の反応性を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】酸化還元反応と電子の授受を酸化数により考える。酸化還元反応を酸化還元反応式にして考える。金属のイオン化傾向を金属の反応性に関連付けて考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】代表的な化学反応の1つである酸化還元</p>	<p>・指導事項 代表的な化学反応の1つである酸化還元反応のしくみや日常生活での利用例等指導する。</p> <p>・教材 同上</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】①酸化と還元の意味と酸化数の規則を理解し、酸化数を計算してわかる。②酸化剤と還元剤、酸化還元反応式について考え、主な酸化剤と還元剤の種類がわかる。③金属のイオン化傾向とイオン化列、金属の反応性と不動性の性質についてわかる。</p> <p>【思考・判断・表現】①酸化反応と還元反応を電子の授受と関連付け、酸化数を計算して考えている。②主な酸化剤と還元剤をあげ、その役割と酸化還元反応を酸化還元反応式にして考えることができる。③金属のイオン化傾向をイオン化列に並べ、金属の反応性に</p>	○	○	○	14
	<p>連付けは考えることができる。</p>						

<p>①は電子反応のメカニズムの酸化還元反応の仕組みを、酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている。</p>		<p>調べようとしていることである。 【主体的に学習に取り組む態度】①代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを、酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている。</p>				
<p>定期考査</p>			<p>○</p>	<p>○</p>		

高等学校 令和8年度（1学年用）教科

理科

科目 生物基礎

教科：理

科目：生物基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組 ~ 6 組

教科担当者：（1組：吉田）（2組：吉田）（3組：吉田）（4組：秋山）（5組：秋山）（6組：秋山）

使用教科書：高等学校 生物基礎（数研出版）

教科の目標	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための調査、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、観察、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

学期	月	学習内容	学習活動・学習のねらい	評価規準（評価方法）			配当 時数	
				知識	思考	表現		
第1 学期	4	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 ・生物の共通性と多様性をこの科目の導入に位置づけ、以降の学習においてこの視点を意識させて展開する。 ・原核細胞と真核細胞を学習する際に、両者の観察を行う。	・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解させる。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。	・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、これらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。（定期考査） ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 ・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見いだし表現することができる。 ・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。（発問評価・課題提出） ・生物の共通性を、実験や観察を通して見いだし、理解しようとする。 ・原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○	8
		2節 細胞とエネルギー ・時間がある場合は、酵素の基質特異性や最適条件、呼吸や光合成の反応の過程なども触れる。 ・時間がある場合は、細胞の共通性に関連して、呼吸や光合成が行われる細胞小器官の起源についても触れる。	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関わっているのか理解させる。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。（定期考査） ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。（発問評価・課題提出） ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。（発問評価） ・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○	
	3章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA ・時間がある場合は、DNAの分子構造や、染色体の構造についても触れる。 ・体細胞分裂の過程については、中学でも学習していることに留意する。 ・時間がある場合は、減数分裂時のDNA量の変化を体細胞分裂と比較して、違いを理解させる。	・DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解させる。その際、複製の概要を扱う。 ・DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。	・DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 ・ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。 ・体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。 ・DNAに基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。 ・DNAの複製は塩基配列と関連付けて説明することができる。（発問評価・課題提出） ・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。 ・ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。 ・細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見いだし、理解しようとする。	○	○	○	8	
	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 ・時間がある場合は、アミノ酸の構造やタンパク質の立体構造についても触れる。 ・転写、翻訳の過程の詳細については、必要であれば触れる。また、その際、トリプレットとコドンの関係についても触れる。	・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることと触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内でつくられていないことを理解させる。	・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。（定期考査） ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。（発問評価・課題提出） ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○		6
	9	第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 ・体液の成分や血液循環、血液凝固に触れる。 ・腎臓が塩濃度調節や老廃物除去に関わることを、肝臓の機能が体液調節に関わることについても触れる。	・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 ・恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 ・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。	・体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 ・腎臓での塩濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。（定期考査） ・腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。（発問評価・課題提出） ・外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○	
	10	2節 体内環境の維持のしくみ ・神経系については、中枢神経系と末梢神経系に分けられることを扱い、脳幹の働きに関連して「脳死」についても触れる。 ・内分泌系については、血液中に分泌されるホルモンが標的器官に情報を伝達することで調節が行われることを扱い、神経系に比べて持続的な調節が行われることにも触れる。	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解させる。 ・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。 ・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解させる。	・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ・ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。（定期考査） ・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。 ・血糖濃度調節のしくみや、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。（発問評価・課題提出） ・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだし、理解しようとする。 ・資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見いだし、理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○	6
	11	3節 免疫 ・二次応答における記憶細胞の存在や、予防接種などの医療利用についても取り上げる。 ・身近な疾患として花粉症やエイズなどを取り上げる。	・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解させる。 ・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 ・免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。	・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。（定期考査） ・二次応答における記憶細胞の存在や、予防接種などの医療利用についても取り上げる。 ・身近な疾患として花粉症やエイズなどを取り上げる。 ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○	
12	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生とその成り立ち ・植物の環境形成作用が遷移の進行に影響すること、遷移の進み方はすべての植生で必ずしも同じではないことに留意させる。	・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 ・陸上には、草原や森林などのさまざまな植生があることを理解させる。 ・植生は不変ではなく、光の量や植生とより密な環境から影響を受けて変化していくことを理解させる。	・陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていることを理解している。 ・植生の遷移についてその過程を理解している。（定期考査） ・資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解することができる。 ・植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。（発問評価・課題提出） ・資料に基づいて、植生が変化する要因を見だし、その要因が植生どのように影響するかを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○	6	
第3 学期	1	2節 植生とバイオーム ・バイオームの定義についてはその構成要素に動物も含まれるが、生物基礎ではおもに植物で説明を行うことに留意する。	・気温や降水量の違いにより、地球上には多くのバイオームが成立していることを理解させる。 ・遷移の結果として森林・草原・荒原のバイオームとなることを理解させる。 ・バイオームの構成要素である植物種を取り上げ、その場所の気温や降水量に適合していることを理解させる。 ・日本のバイオームについても、その構成種とともに理解させる。	・地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。（定期考査） ・気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適合しているためであると考察し、それを表現することができる。（発問評価・課題提出） ・地球にさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○		○
	2・3	3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全 ・生物の多様性については捕食と被食を中心に扱い、生産者、消費者（分解者）について触れる。 ・人間活動の影響により、生物の多様性に变化がみられた例については、科学的なデータや根拠を示して、生態系の保全の重要性を理解させる。 ・生物の多様性の低下と関連させて、生物の絶滅についても扱う。	・生態系における生物の種多様性について理解させる。 ・生物の種多様性と生物間の関係性と関連付けて理解させる。 ・捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解させる。	・生態系における種多様性、生物どうしのかかわりについて理解している。 ・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。（定期考査） ・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。 ・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 ・世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 ・生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて理解しようとする。 ・生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。（発問評価・授業態度）	○	○	○	6

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 地歴公民 科目 歴史総合

教科：地歴公民 科目：歴史総合 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：荒井）（2組：疋田）（3組：疋田）（4組：荒井）（5組：荒井）（6組：荒井）
 使用教科書：（『現代の歴史総合 みる・読み解く・考える』山川出版社）
 教科 地歴公民 の目標：

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な【知識及び技能】情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解し、調査や諸資料から様々な情報を適切に、そして効果的に調べまとめることができる。	地理や歴史に関わるできごとの意味、特色や相互の関係を、多面的に考えたり、社会のさまざまな課題の解決を考えたり、説明したり、議論したりできる。	地理や歴史に関わるさまざまな事項について、これらをつくる人間として、社会をよりよくしようとして課題を主体的に解決しようとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A「歴史の扉」 【知識及び技能】歴史における資料の意味と日本や世界の歴史とのつながりの理解。 【思考力、判断力、表現力等】近代化、大衆化、国際化などの考察、表現と資料の考察、表現。 【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会をめざした課題の主体的な追究。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識・技能】私たちの身近な例から、日本や世界の歴史とのつながりがわかる。歴史は資料に基づくものであると理解する。 【思考・判断・表現】私たちの身近な例を近代化、大衆化、国際化などの変化と関わらせて、考察し、表現できる。資料の関係や変化に着目して、考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。			○ ○	2
B「近代化と私たち」1 【知識及び技能】・資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付けている。・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	B「近代化と私たち」 【知識及び技能】・資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付けてきたか。・18世紀のアジアや日本における生産と流通、貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問題点を認識できるか。・18世紀のアジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○ ○	8
定期考査			○	○		1
1学期 「近代化と私たち」2 【知識及び技能】産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】・	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識及び技能】産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などを基に、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○ ○	6

	近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。						
	「近代化と私たち」3 【知識及び技能】・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識及び技能】・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できた。 【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
2学期	「近代化と私たち」4 【知識及び技能】・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識及び技能】・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できたか。 【学びに向かう力、人間性等】・近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	8
	「国際秩序の変化や大衆化と私たち」 【知識及び技能】・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 【思考力・判断力・表現力等】・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識及び技能】・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解できた。 【思考力・判断力・表現力等】・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いをたてられる。・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察して、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	「国際秩序の変化や大衆化と私たち」2 【知識及び技能】・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解できたか。 【思考力・判断力・表現力等】・第一次世	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。					

	<p>ディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、グループワークを行う。 	<p>界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。 	○	○	○	6
	<p>「国際秩序の変化や大衆化と私たち」3</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。 	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解できたか。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現できるか。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。 	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
3 学 期	<p>「国際秩序の変化や大衆化と私たち」4</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。 	<p>「国際秩序の変化や大衆化と私たち」4</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解できた。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとした。 	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和8年度(1学年用) 教科: 情報 科目: 情報 I

教科: 情報 科目: 情報 I

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 1 学年 1 組 ~ 6 組

教科担当: (1組~6組: 窪寺)

使用教科書: (数研出版「改訂版 高等学校 情報 I (情 I 104-901)」)

教科 情報 の目標:

- 【知識及び技能】情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 情報 I の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報と情報技術の発展の歴史 情報とメディア 【知識及び技能】・情報とは何か。また情報が価値をもつことについて理解させる。 ・様々な情報源と情報技術、情報の価値を認識することの重要性について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】・メディアごとの表現方法や情報の伝わり方からその特徴を理解させる。 ・【学びに向かう力、人間性等】・情報と情報技術を適切に活用して問題を発見・解決する方法を理解させるとともに、目的状況に応じて解決を評価・改善する力を身に付けさせる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・情報社会における法と制度 ・個人情報保護の適正な活用と保護 ・知的財産権 ・情報セキュリティ ・情報セキュリティ対策のための技術 ・情報セキュリティ対策への意識 	<p>A 情報とは何か</p> <p>B 情報源と情報の検証</p> <p>C 情報とメディアの特性</p> <p>D 問題解決</p>	<p>中間考査において、問題を「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれかに分類し、それぞれの得点率を基準に評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度については、課題の提出状況や授業中の様子(発言内容や積極性)を配慮し評価する。</p>	○	○	○	4
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・情報技術が社会に及ぼす影響 ・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなどの情報技術の発展が、社会や生活にもたらす変化について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】・情報技術の発展の歴史、インターネット上のトラブルなど、情報技術の発展の歴史を理解させる。適切な活用について考えさせる。 ・【学びに向かう力、人間性等】・情報技術の発展を適切に活用して、望ましい情報社会の実現に向けて自ら考え行動する力を養う。 	<p>A 情報技術の発展の光と影</p> <p>B 情報技術の適切な活用</p>	<p>○</p>	○	○	1	
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・アナログとデジタル ・デジタル情報の表現 ・文字のデジタル表現 ・音のデジタル表現 ・画像のデジタル表現 ・データの圧縮 	<p>A アナログとデジタル</p> <p>B デジタル情報の表現</p> <p>C 文字のデジタル表現</p> <p>D 音のデジタル表現</p> <p>E 画像のデジタル表現</p> <p>F データの圧縮</p>	<p>期末考査において、問題を「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれかに分類し、それぞれの得点率を基準に評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度については、課題の提出状況や授業中の様子(発言内容や積極性)を配慮し評価する。</p>	○	○	○	9
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・通信とその発展 ・情報の発信とメディアの性質 	<p>A 通信とその発展</p> <p>B 情報の発信とメディアの性質</p>	<p>○</p>	○	○	3	
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・情報表現の方法 ・ユニバーサルデザイン ・プレゼンテーション 	<p>A 情報を表現する方法</p> <p>B ユニバーサルデザイン</p> <p>C プレゼンテーション</p>	<p>中間考査において、問題を「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれかに分類し、それぞれの得点率を基準に評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度については、課題の提出状況や授業中の様子(発言内容や積極性)を配慮し評価する。</p>	○	○	○	5
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・コンピュータの構成 ・論理回路 ・コンピュータでの数値の内部表現 	<p>A コンピュータの構成</p> <p>B 論理回路</p> <p>C コンピュータでの数値の内部表現</p>	<p>中間考査において、問題を「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれかに分類し、それぞれの得点率を基準に評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度については、課題の提出状況や授業中の様子(発言内容や積極性)を配慮し評価する。</p>	○	○	○	1
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・アルゴリズム ・プログラミング言語とは ・プログラミングの方法1 ・プログラミングの方法2 ・プログラミングの方法3 	<p>A アルゴリズム</p> <p>B プログラミング言語とは</p> <p>C プログラミングの方法1</p> <p>D プログラミングの方法2</p> <p>E プログラミングの方法3</p>	<p>○</p>	○	○	17	
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・モジュール化 ・シミュレーション ・乱数を使うシミュレーション 	<p>A モジュール化</p> <p>B シミュレーション</p> <p>C 乱数を使うシミュレーション</p>	<p>○</p>	○	○	1	
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・ネットワークと通信プロトコル ・ベクトル通信 ・通信の信頼性 ・IPアドレスとドメイン名 ・WWWと電子メールのしくみ ・情報の暗号化 	<p>A ネットワークと通信プロトコル</p> <p>B ベクトル通信</p> <p>C 通信の信頼性</p> <p>D IPアドレスとドメイン名</p> <p>E WWWと電子メールのしくみ</p> <p>F 情報の暗号化</p>	<p>学年末考査において、問題を「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれかに分類し、それぞれの得点率を基準に評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度については、課題の提出状況や授業中の様子(発言内容や積極性)を配慮し評価する。</p>	○	○	○	6
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・データベース ・さまざまな情報システム 	<p>A データベース</p> <p>B さまざまな情報システム</p>	<p>○</p>	○	○	10	
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】・データのさまざまな形式と種類 ・データの収集と整理 ・データの分析1 ・データの分析2 	<p>A データのさまざまな形式と種類</p> <p>B データの収集と整理</p> <p>C データの分析1</p> <p>D データの分析2</p>	<p>○</p>	○	○	1	
学年末考査			○	○		合計
						64

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科：芸術

科目：音楽 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：外側） （2組：外側） （3組：外側） （4組：外側） （5組：外側） （6組：外側）

使用教科書：MOUSA1（教育芸術社）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創						
A 曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう 【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫しようとする	・指導事項 曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、表現を工夫して表情豊かに歌おう ・教材 ヴォイストレーニング 0 Waly Waly 翼をください 花 0 sole mio 校歌 等 ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助	○			【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解している 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している		○	○	○	8
B ボディー・パーカッションに挑戦しよう 【知識及び技能】 リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながり意識して演奏する 【思考力、判断力、表現力等】 曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見を交換したりしながら演奏する	・指導事項 曲想と音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けるとともに、他者と協働しながらイメージをもって表現を工夫して演奏する ・教材 Plymouth Rock クラッピング・カルテット ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助		○		【知識及び技能】 リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながり意識して演奏できる 【思考力、判断力、表現力等】 曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見を交換したりしながら演奏している		○	○	○	6
C オノマトペでリズムアンサンブルを作ろう 【知識及び技能】 オノマトペのもつリズム感やアクセントなどの面白さを生かして、他者と協働しながらイメージをもって表現を工夫して演奏する 【思考力、判断力、表現力等】 互いに聞きながら、曲想と音楽の構造や歌詞とのかわりを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見を交換したりしながら創作し演奏する	・指導事項 オノマトペのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、他者と協働しながらイメージをもって表現を工夫して演奏する ・教材 オノマトペでリズムアンサンブルを作ろう ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助			○	【知識及び技能】 オノマトペを重ねたりしたときの響き、音型などの特徴、構成上の特徴について、イメージとかかわらせて理解している 【思考力、判断力、表現力等】 リズム、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じたこととかかわりについて考え、表現意図を持っている 【学びに向かう力、人間性等】 オノマトペを連ねたり重ねたりしたときの響き、音型の特徴に関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。		○	○	○	4
D 表現を工夫してギター演奏しよう 【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	・指導事項 曲想とギターの音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する ・教材 日曜日よりの使者 第三の男のテーマ ・一人1台端末の活用 等 構成や形式の確認 読譜の補助			○	【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解している 【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している		○	○	○	8

2 学 期	<p>E 「コード進行」をもとにメロディーをつくらう</p> <p>【知識及び技能】 反復、変化などの手法を用いてメロディーをつくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーをもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する</p>	<p>・指導事項 音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、反復、変化などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して創作する</p> <p>・教材 「『コード進行』をもとにメロディーをつくらう」 「コード・ネーム」 ・一人1台端末の活用 等 ガレージバンドを用いた創作</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 反復、変化などの手法を用いてメロディーをつくったり、つくったメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付けている</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくることができる</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している</p>	○	○	○	8
	<p>F 日本の伝統音楽に親しもう</p> <p>【知識及び技能】 日本の伝統音楽を鑑賞したり調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して話し、表現に必要な技能を身に付ける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 身に付けた技能を用いて積極的に話に挑戦する</p>	<p>・指導事項 日本の伝統音楽の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して話し</p> <p>・教材 歌唱：《高砂》/《羽衣》 鑑賞：能《道成寺》/「舞台芸術」 ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 能や歌舞伎を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解している</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して話し、表現に必要な技能を身に付けている</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 身に付けた技能を用いて積極的に話に挑戦している</p>	○	○	○	4
	<p>G ささまざまな形態の歌唱を楽しもう</p> <p>【知識及び技能】 創意工夫を生かした歌唱表現に必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付け、歌唱する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 音色、リズム、速度、旋律、強弱、などを知覚しそれらの働きを感じながら、どのように歌うか表現意図を持つ</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協同的に歌唱しようとする</p>	<p>・指導事項 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して話し</p> <p>・教材 いのちの歌 Do-Re-Mi 言わない 早春 ・一人1台端末の活用 等</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 創意工夫を生かした歌唱表現に必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付け、歌唱している</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意し、表現に必要な技能を身に付けている</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている</p>	○	○	○	8
	<p>F 音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう</p> <p>【知識及び技能】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて意見を交換し理解を深める</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う</p>	<p>・指導事項 音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評する</p> <p>・教材 「音楽を織りなすさまざまな要素」/組曲《動物の謝肉祭》交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章/バレエ音楽《火の鳥》組曲/「西洋音楽の流れ」 「オーケストラを知ろう」 ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞している</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 曲想の表現上の効果と音楽の反応とのかかわりについて理解を深めている</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○	6
	<p>G 日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう</p> <p>【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解しようとする</p>	<p>・指導事項 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う</p> <p>・教材 むこうむこう/この道 「日本語と旋律」/「詩の心を大切に歌おう」/「日本語の歌詞の歌い方」/Caro mio ben 「Caro mio ben 大解剖」 Heidenröslein(シューベルト)/Sah ein Knab ein Röslein stehn(F.レハール)/Ich liebe dich オー・シャンゼリゼ ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助 読譜の補助</p>	○	○	<p>【知識及び技能】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付けている</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫している</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解しようとしている</p>	○	○	○	8

3 学期	<p>さまざまな器楽アンサンブルを奏しよう</p> <p>【知識及び技能】 一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する</p> <p>共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 互いに協働しながらアンサンブルを作り上げる</p>	<p>・指導事項 器楽アンサンブルによる表現の特徴を理解し、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏する</p> <p>・教材 ミッション：インボッシブルのテーマ The First Noel Twist And Shout ・一人1台端末の活用 等 鑑賞の補助 読譜の補助 楽器として活用</p>	○	○	○	<p>【知識及び技能】 一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏できる</p> <p>共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫できる</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 互いに協働しながらアンサンブルを作り上げている</p>	○	○	○	10
---------	--	--	---	---	---	--	---	---	---	----

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

教科：芸術 科目：美術 I 単位数：2 単位
 対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組
 教科担当者：（1組：富田） （2組：富田） （3組：富田） （4組：富田） （5組：富田） （6組：富田）
 使用教科書：（高等学校 美術 I（光村図書））

教科 芸術 の目標：
 【知識及び技能】対象モチーフにふさわしい鉛筆の技法に留意して描き、描画表現に必要な技能を身に付ける
 【思考力、判断力、表現力等】対象モチーフの良さを感性や想像力を働かせて捉え、配置や構図を工夫して表現する方法を理解する
 【学びに向かう力、人間性等】想像力をもって、対象モチーフが持つ美しさや特徴を理解し、その要素を試行錯誤しながら描画する工夫をしようとする

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象モチーフにふさわしい鉛筆、絵具の技法に留意して描き、描画表現に必要な技能を身に付けている	対象モチーフの良さを感性や想像力を働かせて捉え、配置や構図を工夫して表現する方法を理解している	想像力をもって、対象モチーフが持つ美しさや特徴を理解し、その要素を試行錯誤しながら描画する工夫をしようとしている

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	A 鉛筆デッサン 【知識及び技能】 対象モチーフにふさわしい鉛筆の技法に留意して描き、描画表現に必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 対象モチーフの良さを感性や想像力を働かせて捉え、配置や構図を工夫して表現する方法を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 想像力をもって、対象モチーフが持つ美しさや特徴を理解し、その要素を試行錯誤しながら描画する工夫をしようとする	・指導事項 鉛筆の削り方と基礎的なデッサンを習得し、鉛筆による様々な描画表現を身に付けるとともに、対象モチーフの質感や形の良さを理解し、画面に表現する ・教材 高校美術 I 光村図書 プリント ・一人1台端末の活用 等 鉛筆の削り方の動画を教科書のQRコードから読み取り確認する資料探し	○			A 鉛筆デッサン 【知識及び技能】 対象モチーフにふさわしい鉛筆の技法に留意して描き、描画表現に必要な技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 対象モチーフの良さを感性や想像力を働かせて捉え、配置や構図を工夫して表現する方法を理解している 【学びに向かう力、人間性等】 想像力をもって、対象モチーフが持つ美しさや特徴を理解し、その要素を試行錯誤しながら描画する工夫をしようとしている	○	○	○	12
	B 平面構成 【知識及び技能】 「色相・明度・彩度」等の基礎的な色彩の理論をとアクリル絵の具の技法を学び、様々な感覚を色彩で表現するために必要な技能を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 感情を色彩で表すというテーマにふさわしい配色や構図を考え、デザインに結び付けて表現する方法を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 平面構成の制作を通じてデザインとは何かを考えながら構想を練り、試行錯誤しながら表現する工夫をしようとする	・指導事項 基礎的な色彩理論を学び、アクリル絵の具による様々な表現を身に付けるとともに、デザインすることで画面に表現する ・教材 高校美術 I 光村図書 プリント ・一人1台端末の活用 等 絵具についての動画を教科書のQRコードから読み取り確認する資料探し		○	○	B 平面構成 【知識及び技能】 「色相・明度・彩度」等の基礎的な色彩の理論をとアクリル絵の具の技法を学び、様々な感覚を色彩で表現するために必要な技能を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 感情を色彩で表すというテーマにふさわしい配色や構図を考え、デザインに結び付けて表現する方法を理解している 【学びに向かう力、人間性等】 平面構成の制作を通じてデザインとは何かを考えながら構想を練り、試行錯誤しながら表現する工夫をしようとしている	○	○	○	12
C 作品鑑賞	・指導事項 「サモトラケのニケ」を鑑賞し、作品に込められた思いや願いを感じ取り、感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心をもち、作品の見方や感じ方を深める ・教材				【知識及び技能】 彫刻作品を鑑賞し、彫刻の特徴と周辺の美術史について理解している 【思考力、判断力、表現力等】 彫刻作品の制作意図や歴史的背景と結び付け、作品の良さとともに社会に幅広く視野					

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教科：芸術

科目：書道 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：藤田由起）（2組：藤田由起）（3組：藤田由起）（4組：藤田由起）（5組：藤田由起）（6組：藤田由起）

使用教科書：（書 I（教育図書））

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を想像していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
		漢	漢	仮						
<p>【知識及び技能】 用具用材の特徴や表現効果としてのの 目的や用途に即した効果的な表現など を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 中学書写で学んだ表現形式などや、 意図に基づいた表現について構想し 工夫できる 漢字の書体の変遷と、各書体の字形 や線質の特徴について理解すること ができる 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現活動に主体的に取り組も うとする</p>	<p>○書へのいざない ・姿勢や執筆法、基本用筆など書 の基本を身に付け、用具用材の種 類、名称、製法、扱い方などにつ いて学ぶ ・中学校までの書写の学習を振り 返り、書写と書道の共通点と相違 点を理解する ・漢字の書体の変遷と仮名の誕生 について理解する</p>	○	○	○	○	<p>【知識及び技能】・用筆・運筆から生み出され る書の表現性とその表現効果との関わりにつ いて理解している ・書を構成する要素について、それら相互の関 連がもたらす働きと関わらせて理解している 【思考力、判断力、表現力】・漢字の書体の変 遷、仮名の成立等について理解している ・作品の価値とその根拠について考え、書のよ さや美しさを味わって捉えている 【学びに向かう力、人間性】・主体的に幅広い 表現と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている</p>	○	○	○	6
<p>【知識及び技能】 楷書の古典の書体や書風と用筆運筆 との関わりについて理解する 楷書の古典に基づく基本的な用筆運 筆の技能、線質、字形や構成を生か した表現を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 楷書の古典の書体や書風に即した用 筆運筆、字形、全体の構成について 構想し工夫することができる 楷書の古典の価値を考え、書の良 さや美しさを味わって捉えること ができる 【学びに向かう力、人間性等】 楷書の表現の特質に基づき、幅広い 表現の学習活動に主体的に取り組も うとする 楷書のよさや美しさ、作品の価値な どを考えながら、幅広い鑑賞の学習</p>	<p>○漢字の書 楷書 ・楷書の特徴を理解し、楷書古典 の書風の相違を感じ得る ・唐の四大家等の作品(孔子廟堂 碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、 顏氏家廟碑)等の鑑賞と臨書を通 してその書美を学ぶ</p>	○		○	○	<p>【知識及び技能】・漢字の書の楷書の古典の 書風と用筆・運筆の関係を理解している ・漢字の書の楷書の古典の表現に基づく、基 礎的な用筆・運筆の技能を身につけて表 している 【思考力、判断力、表現力】・漢字の書のよ さや美しさを感じ取り、感性を働かせなが ら、自らの意図に基づいて構想、表現を工夫 している 【学びに向かう力、人間性】・漢字の書の創 造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に 関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活 動に取り組もうとしている</p>	○	○	○	14
<p>【知識及び技能】 行書の古典の書体や書風と用筆運筆 との関わりについて理解する 行書の古典に基づく基本的な用筆運 筆の技能、線質、字形や構成を生か した表現を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 行書の古典の書体や書風に即した用 筆運筆、字形、全体の構成について 構想し工夫することができる 行書の古典の価値を考え、書の良 さや美しさを味わって捉えること ができる 【学びに向かう力、人間性等】 行書の表現の特質に基づき、幅広い 表現の学習活動に主体的に取り組も うとする 行書のよさや美しさ、作品の価値な どを考えながら、幅広い鑑賞の学習</p>	<p>○漢字の書 行書 ・行書の特徴を理解し、行書古典 の書風の相違を感じ得る ・王羲之の書の尊重と影響につ いて知る ・蘭亭序などの鑑賞と臨書を通し てその書美を学ぶ</p>	○		○	○	<p>【知識及び技能】・漢字の書の行書の古典の 書風と用筆・運筆の関係を理解している ・漢字の書の行書の古典の表現に基づく、基 礎的な用筆・運筆の技能を身につけて表 している 【思考力、判断力、表現力】・漢字の書のよ さや美しさを感じ取り、感性を働かせなが ら、自らの意図に基づいて構想、表現を工夫 している 【学びに向かう力、人間性】・漢字の書の創 造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に 関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活 動に取り組もうとしている</p>	○	○	○	6
<p>【知識及び技能】 篆書隷書草書等の古典の書体や書風 と用筆運筆との関わりについて理解 する 篆書隷書草書等の古典に基づく基本 的な用筆運筆の技能、線質、字形や 構成を生かした表現を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 篆書隷書草書等の古典の書体や書風 に即した用筆運筆、字形、全体の構</p>	<p>○漢字の書 草書、隷書、篆書 ・草書、隷書、篆書の各書体の生 まれた背景を知り、特徴を理解す る ・草書、隷書、篆書の作品の鑑賞 と臨書を通してその書美を学ぶ 漢字の書の創作 ・漢字の書の作品制作の手順を知 り、表現を楽しむ</p>	○		○	○	<p>【知識及び技能】・漢字の書の篆書、隷書、草 書の古典の書風と用筆・運筆の関係を理解し、 篆書、隷書、草書の古典の表現に基づく、基 礎的な用筆・運筆の技能を身につけて表 している ・創作をする際には用具用材の使い方等を工夫 することができる 【思考力、判断力、表現力】・漢字の書のよ さや美しさを感じ取り、感性を働かせなが ら、自らの意図に基づいて構想、表現を工夫し ている ・創作をする際には、表現しようとするイメ ジや文字数にあわせた紙面の使い方や構成する</p>	○	○	○	18

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：奥平）（2組：奥平）（3組：奥平）（4組：樋口）（5組：樋口）（6組：樋口）
 使用教科書：（精選論理国語（東京書籍））

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方などの国語の知識や技能を養う。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		語	書	読					
<人間を見つめる> 【知識及び技能】 論証や学術的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで筆者の主張を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「分人とは何か」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 筆者独自の造語に基づく主張を読み取り、新学期で他社との関わりの変化するこの時期に、「分人」という観点から自分とその人間関係について考えを深めようとしている。	○	○	○	6
<発見への誘い> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 問題について、多面的な視点で読み、論理の展開を批判的に捉え、論点を明確にしている。 【学びに向かう力、人間性等】 本文の理解を踏まえたうえで、「芸術」についての見方を深め、説明しようとしている。	・教材 教科書「ミロのヴィーナス」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで芸術における具体と抽象の関係性や、筆者の論の進め方を捉え、学習課題に沿って見えないものへと思考を広げる、芸術に対する見方を深めようとしている。	○	○	○	7
定期考査						○	○		1
<人間を見つめる> 【知識及び技能】 論証や学術的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで筆者の主張を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「相手依存の自己規定」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】 筆者の言語学に発端とする主張を読み取り、『分人とは何か』など既習の文章の知識生かして、自己・他者について考えを深めようとしている。	○	○	○	7
<人間を見つめる> 【知識及び技能】 論証や学術的な学習の基礎を学ぶのに必要な語句を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで筆者の主張を読み取り、人間の在り方について自分の考えを深める。	・教材 教科書「メディアの変容」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 文章以外の多様なメディアから得た情報を文章化できる。 【学びに向かう力、人間性等】 人間関係の分析を理解し、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	○	○	○	8
定期考査						○	○		1

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～6組
 教科担当者：（1組：樋口） （2組：樋口） （3組：樋口） （4組：奥平） （5組：奥平） （6組：奥平）
 使用教科書：（精選古典探究（東京書籍））

- 教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		話、 劇	書	読					
1 学 期	<歌物語> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・教材 教科書『伊勢物語』 「初冠」「月やあらぬ」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、必要な語句の量を増やすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 歌物語の特徴について正確に理解し、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ることができる。	○	○	○	15
	<小話> 【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 漢文の基本的な読み方を確認する。	・教材 教科書「先従隗始」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解し、必要な語句の量を増やすことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで漢文の読み方を確認し、学習課題に沿って、故事成語の果たす役割について考えることができる。	○	○	○	6
	定期考査					○	○		1
	<歌物語> 【知識及び技能】 文や文章の効果的な組み立て方や語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	・教材 教科書『枕草子』『中納言参り給ひて』『雪のいと高う降りたるを』および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えて、古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 進んで作者の観察眼や「をかし」という語に代表される価値観について理解し、平安時代の後宮生活について考えを深めることができる。	○	○	○	15
<詩> 【知識及び技能】 唐詩の鑑賞を通して、我が国と中国との文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 唐詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。	・教材 教科書「近代詩」および副教材 ・一人1台端末の活用 等	○	○	【知識及び技能】 我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、内容の理解を深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 進んでさまざまな唐詩を読み味わい、言語感覚や想像力を豊かにすることができる。	○	○	○	8	
定期考査					○	○		1	

年間授業計画

高等学校 令和 8 年度 2 学年 教科：外国語（英語） 科目：英語コミュニケーション2 3 単位

教科： 外国語（英語） 科目：英語コミュニケーション2

対象学年・組： 第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組 後藤貴子）（2組 後藤貴子）（3組 後藤貴子）（4組 村川裕一）（5組 村川裕一）（6組 村川裕一）

使用教科書： Crown English Communication II

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等： 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等： コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 英語コミュニケーション2 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文章を理解できる。題材についての発話を聞き取ることができる。身近な話題について言語活動を行うことができる。	教科書で学んだ文法・語彙の知識を応用し、社会、学校、娯楽などについて、討論や発表ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 不定詞 動名詞 分詞構文 関係副詞	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：社会、学校、娯楽などで普段で会うような身近な話題についてのスピーチやインタビューなどが標準的な話し方であれば要点を理解することができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉えることができ、英和辞典を参照すれば適切に読み取ることができる。身近な事象についての文章を読み取ることができる。	○	○	○	36
	1 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
2 学期	Lesson 5～8 前置詞＋関係代名詞 無生物主語の他動詞構文 助動詞	○	○	やり取り ○	○	話すこと（やり取り）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を述べ合うことができる。身近な話題について討論などの意見交換を行うことができる。 話すこと（発表）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を筋の通った構成でスピーチに仕立て、効果的に発表することができる。	○	○	○	42
	2 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
3 学期	Lesson 9～10 仮定法 未来進行形 未来完了形 受け身の進行形 独立分詞構文 倒置	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：教科書で学んだ文法や語彙を正しく使用し、身近な話題や個人的に関心のある話題について2パラグラフ以上の筋の通った文章を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)	○	○	○	24
	学年末考査	○	○		○		○	○		1
							配当時数合計		105	

年間授業計画

高等学校 令和 8 年度

2 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 論理表現2

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 論理表現2

対象学年・組： 第2学年 1組～6組

教科担当者：(1組 入江、吉川) (2組 入江、加藤) (3組 入江、加藤) (4組 加藤、後藤) (5組 後藤、加藤) (6組 後藤、吉川)

使用教科書： Earthrise II Advanced

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等： 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等： コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 論理表現2 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文法・語法を十分に理解している。標準的な発話を聞き取り要点を理解できる。標準的な発音ができる。	教科書で学んだ知識を元に身近な出来事についての発話を聞き取り要点を理解できる。身近な話題についての英作文ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Part 1 Basic Expressions 主語、動詞、名詞表現、形容詞表現、副詞表現	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：社会、学校、娯楽などで普段で会うような身近な話題についてのスピーチやインタビューなどが標準的な話し方であれば要点を理解することができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉えることができ、英和辞典を参照すれば適切に読み取ることができる。身近な事態についての文章を読み取ることができる。	○	○	○	36
	1 学期定期考査	○	○	発表 ○	○		○	○	○	
2 学期	Part 2 Functional Expressions 感情・助言・忠告・勧誘・提案・賛成・反対・意見表明等の表現方法	○	○	やり取り ○	○	話すこと（やり取り）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を述べ合うことができる。身近な話題について討論などの意見交換を行うことができる。 話すこと（発表）：社会、学校、娯楽などについて、自分の意見や感想を筋の通った構成でスピーチに仕立て、効果的に発表することができる。	○	○	○	42
	2 学期定期考査	○	○	発表 ○	○		○	○	○	
3 学期	Part 3 Express yourself logically 文章構成。学習項目一パラグラフの構成・例示・比較・対照・原因・時間的順序等。	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：教科書で学んだ文法や語彙を正しく使用し、身近な話題や個人的に関心のある話題について2パラグラフ以上の筋の通った文章を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)	○	○	○	24
	学年末考査	○	○	発表 ○	○		○	○	○	
							配当時数合計			105

高等学校 令和8年度（2学年用）

理科 化学

教科：理科

科目：化学

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

1・2・3・4 組

教科担当者：（ 多田 ）

使用教科書：（ 高等学校 化学 啓林館 ）

教科 理科 化学 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての知識・理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に思考し判断する能力を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察実験に対する技能を身に着けようとする能力を養う。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、化学的に探究する能力を身に着ける。探究の方法や結果を表現する能力を身に着ける。	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察実験などを行う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	無機物質 無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	水素と貴ガス ハロゲン 酸素・硫黄 窒素・リン 炭素・ケイ素	【知識・技能】 非金属元素の単体及び化合物の性質がわかる。 【思考・判断・表現】 非金属元素の単体及び化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連付けて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 非金属元素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を考えたり、調べたりしようとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	無機物質 無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	アルカリ金属 2族元素 アルミニウム亜鉛・水銀 スズ・鉛 遷移元素 金属イオンの分離	【知識・技能】 非金属元素の単体及び化合物の性質がわかる。 【思考・判断・表現】 非金属元素の単体及び化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連付けて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 非金属元素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を考えたり、調べたりしようとする。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
2 学期	有機化合物 有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	有機化合物の特徴と分類 有機化合物の分析 飽和炭化水素 不飽和炭化水素 アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸 エステルと油脂	【知識・技能】 有機化合物の性質や反応についてその構造と関連付けて理解できる。 【思考・判断・表現】 有機化合物の分類と特徴を理解しそれを日常生活や社会と関連付けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 有機化合物の性質や反応について実験・観察を通じて探究できる。			○	14
	定期考査			○	○		1
	有機化合物 有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物 有機化合物の分離 医薬品 染料 食品	【知識・技能】 有機化合物の性質や反応についてその構造と関連付けて理解できる。 【思考・判断・表現】 有機化合物の分類と特徴を理解しそれを日常生活や社会と関連付けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 有機化合物の性質や反応について実験・観察を通じて探究できる。			○	14
定期考査			○	○		1	
3 学期	固体の構造 物質の状態変化 気体の性質 気体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。	結晶の構造 アモルファス 状態変化 気液平衡と蒸気圧 気体の体積変化 気体の状態方程式	【知識・技能】 固体・気体について状態変化、溶解平衡について理解できる。 【思考・判断・表現】 固体・気体についてその性質を日常生活や社会と関連付けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 固体・気体の性質や反応について実験・観察を通じて探究できる。			○	15
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 地歴公民 科目 日本史探究

教科：地歴公民 科目：日本史探究 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組（2組をのぞく）

教科担当者：（1組：中野）（2組：中野）（3組：中野）（4組：中野）（5組：中野）（6組：中野）

使用教科書：（『詳説 日本史探究』山川出版社）

教科 地歴公民 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章日本文化のあけぼの ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ③大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ④集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ⑤集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 【主体的態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	6
歴史資料と原始・古代の展望 ①中国の歴史書の記事をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権（倭国）と中国・朝鮮半島の諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ②古代の対外交流がヤマト政権や律令国家の展開に向かってどのように変化していったか、仮説を表現して展望する。 ③遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を特徴とする律令制のもとで人・物・情報がどのように移動していたのか、多面的・多角的に考察する。 ④古代の中央・地方をめぐる物流や地方における文字文化の広がりについて、仮説を表現して展望する。	・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。 ・教材 教科書および副教材 ・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。 ・適宜、グループワークを行う。	【知識・技能】 中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 中国の歴史書の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【主体的態度】 日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態を明らかにしようとしている。木簡を資料として活用し、律令国家における文字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。	○	○	○	3

1学期

<p>定期考査</p> <p>第2章古墳とヤマト政権</p> <p>①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。</p> <p>②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。</p> <p>③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。</p> <p>④ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。</p> <p>⑤飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目し</p>	○	○	○	1
<p>第3章律令国家の形成</p> <p>①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。</p> <p>②律令にもとづく国内統治体制について理解する。</p> <p>③律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。</p> <p>④平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>第3章律令国家の形成</p> <p>①律令国家の成立期にあたる白鳳文化の形成過程について考察する。</p> <p>②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。</p> <p>③平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。</p> <p>④東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	8

<p>第4章貴族政治の展開</p> <p>①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。</p> <p>②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。</p> <p>③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。</p> <p>④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。</p> <p>⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。</p> <p>⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見</p>	○	○	○	12
定期考査			○	○		1
<p>第5章院政と武士の躍進</p> <p>①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</p> <p>②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。</p> <p>③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</p> <p>④古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。</p>	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
<p>歴史資料と中世の展望</p> <p>①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。</p> <p>②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>『年中行事絵巻』『一遍上人絵伝』『洛中洛外図屏風』を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。</p>	○	○	○	3

3 学 期	<p>第6章武家政権の成立</p> <p>①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。</p> <p>③承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。</p> <p>④武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立、承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響などについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。武家と公家の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>第6章武家政権の成立</p> <p>①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p> <p>②非御家人に対する権限拡大などの意義を考察する。</p> <p>③庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p> <p>④伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。</p>	<p>・指導事項 指導目標をもとに、板書やPowerPointなどを利用して説明する。</p> <p>・教材 教科書および副教材</p> <p>・適宜、通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。</p> <p>・適宜、グループワークを行う。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。公武関係の変化に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的態度】</p> <p>宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
						合計	70

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 地歴公民 科目 世界史探究

教科: 地歴公民 科目: 世界史探究 単位数: 2 単位
 対象学年組: 第 2 学年 1 組～ 5 組(4組をのぞく)
 教科担当者: (1 組: 粕谷) (2組: 粕谷) (3組: 粕谷) (4 組:) (5組: 粕谷) (6組:)
 使用教科書: (山川出版社 世界史探究)

教科 地歴公民 の目標:
 【知識及び技能】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報
 【思考力、判断力、表現力等】現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野
 【学びに向かう力、人間性等】国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	2 古代オリエント文明とその周辺 【知識及び技能】オリエントの気候風土と歴史を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】当時の歴史や社会を考え、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】オリエント文明への興味をいだき、深めようとする。	①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。 【思考・判断・表現】ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	4 古代ギリシアの都市国家 【知識及び技能】古代ギリシアに関して基本的な知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】理解した内容をまとめたり表現する。 【学びに向かう力、人間性等】自ら学ぼうと努める。	①ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ②スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ④ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 【思考・判断・表現】オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	17
定期考査			○	○		1	
2 学期	4 中国の古代文明 【知識及び技能】古代文明から中国王朝初期の知識を得る。 【思考力、判断力、表現力等】関心を持って、得た知識の定着をはかる土両区を行う。 【学びに向かう力、人間性等】さらに深める努力をする。	①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生業などに与えた影響を考察し表現する。 ②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 【思考・判断・表現】青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	3 南アジアの古代文明 【知識及び技能】風土やそこで誕生した文明及び歴史の展開を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学んだ内容を要約したりして、理解を深める。 【学びに向かう力、人間性等】自ら調べて、関心を深めようとする。	①仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ②南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。 ③クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。	【知識・技能】南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 【思考・判断・表現】インド洋航海図(地図)や『エリュトラリア海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	15

	定期考査			○	○		1
3 学 期	1 イスラーム教の諸地域への伝播 【知識及び技能】イスラーム教の内容と広まりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学んだ内容を理解が深まるようにまとめる。 【学びに向かう力、人間性等】興味ある内容を調べてまとめる	①イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。 ②南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。 ③東南アジアにおいてイスラーム化が進んだ背景について考察し表現している。 ④アフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因を考察し表現している。	【知識・技能】中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解している。 【思考・判断・表現】諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】諸地域の交流・再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	17
	定期考査						1
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当者：（1組：加藤春）（2組：加藤春）（3組：加藤春）（4組：加藤春）（5組：加藤春）（6組：加藤春）

使用教科書：（高等学校 公共（第一学習社）、最新公共資料集2025（第一学習社）、公共ノート（第一学習社））

教科 公民

の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 公共

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
公共的な空間をつくる私たち 青年期の特徴と発達課題、及び個人・社会・伝統と文化の視点から人間のあり方について理解するとともに、自己形成及び社会形成に主体的に参画することの意義について考察する。	・社会に生きる私たち ・個人の尊厳と自主・自律 ・多様性と共通性 ・キャリア形成と自己実現 ・伝統と文化とのかかわり	【知識・技能】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について理解する。 【思考・判断・表現】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・青年期の特徴と自己形成の課題、個人・社会・伝統と文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について、自分自身の課題としても捉え、主体的に追究している。	○	○	○	9
定期考査			○	○		1
公共的な空間における人間としてのあり方生き方 現代の諸課題について判断し選択する際の考え方としての功利主義と幸福の原理や義務論と公正の原理を理解する。 生命倫理や環境倫理にかかわる課題について、功利主義や義務論の視点から考察し議論する。	・人間と社会のあり方についての見方・考え方 ・環境保護 ・生命倫理 ・公共的な空間を形成するための考え方 ・よりよく生きる行為者としての活動	【知識・技能】 ・現代の諸課題について判断し選択する手がかりとなる功利主義や義務論などの考え方について理解している。 【思考・判断・表現】 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	6
公共的な空間における基本的原理 公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解する。 これらがなぜ公共空間の基本原則とされるのか、また、それらを実現する上での課題について考察する。	・人間の尊厳と平等 ・個人の尊重 ・民主政治の基本原則 ・法の支配 ・自由・権利と責任・義務 ・世界の主な政治体制 ・日本国憲法に生きる基本的原理	【知識・技能】 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解している。 【思考・判断・表現】 ・公共的な空間における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
法的主体となる私たち 法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。 法の意義と役割、消費者の権利と義務、司法参加などにかかわる課題について考察し表現する。	・私たちの生活と法 ・法と基本的人権 ・自由・平等と法・規範 ・法をよりよく変えていくために ・さまざまな契約と法 ・消費者の権利と責任 ・裁判所と人権保障	【知識・技能】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、理解している。 【思考・判断・表現】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、主体的に追究している。	○	○	○	7
政治的主体となる私たち 政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解する。 地方政治、国政に関する課題について、民主政治や民意の反映などの観点から解決に向けて考察し表現する。	・選挙の意義と課題 ・政治参加と世論形成 ・国会と立法 ・内閣と行政の民主化 ・地方自治と住民の福祉	【知識・技能】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、理解している。 【思考・判断・表現】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、主体的に追究している。	○	○	○	5
定期考査			○	○		1
経済的な主体となる私たち 経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 経済のしくみや動向についての基礎的理解を基礎に、経済についての政策、財政や金融に関する政策課題、社会保障にかかわる課題について関心を持つ	・私たちと経済 ・労働者の権利と労働問題 ・技術革新の進展と産業構造の変化 ・企業の活動 ・日本経済史 ・市場経済と経済運営 ・市場経済のしくみ ・経済発展と環境保全 ・経済成長と国民福祉 ・金融の意義や役割 ・政府の経済的役割と租税の意義 ・社会保障と国民福祉	【知識・技能】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと働き、中央銀行の役割と金融環境の変化、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、主体的に追究している。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1

	<p>国際社会に生きる私たち</p> <p>国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、実際の国際社会の事象とも関連させながら理解する。</p> <p>国際政治、国際経済にかかわる諸課題について多面的・多角的に考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家と国際法 ・ 国境と領土問題 ・ 国際連合の役割と課題 ・ 平和主義と安全保障 ・ 核兵器の廃絶と国際平和 ・ 今日の国際社会 ・ 人種・民族問題と地域紛争 ・ 国際社会における日本の役割 ・ 国際分業と国際貿易体制 ・ 国際種収支と為替相場 ・ 経済的グローバル化と日本 ・ 地域的経済統合の動き ・ 国際社会における貧困や格差 ・ 地球環境問題 ・ 資源・エネルギー問題 ・ 国際社会のこれから 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、主体的に追究している。 	○	○	○	12
3 学 期	<p>持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。</p> <p>探究の結果や自らの主張を論拠を明確にして説明したり表現したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境問題 ・ 資源・エネルギー問題 ・ 生命倫理 ・ 情報 ・ 国際社会の課題 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に必要な事項を理解している。また、第1編・第2編で学習した知識と関連付けている。 ・ 必要な資料を収集・整理し、必要な事項を抽出しまとめている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に向けて必要な資料や情報を収集し、分析したり考察したり判断したりしている。 ・ 得られた結果や自らの主張を、論拠を明確にして説明したり表現したりしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究のための学習計画をふまえて、探究活動の進行を自ら振り返り調整しながら、解決に向けて主体的に取り組んでいる。 	○	○	○	6
	<p>定期考査</p>			○	○		70
							合計

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

教科担当者：佐々木・阪本・松本・花井・小久保・田島

使用教科書：新高等保健体育

教科 保健体育 の目標：生涯にわたって健康で豊かな生活を送る力を育てる。

【知識及び技能】下記表と同じ

【思考力、判断力、表現力等】下記表と同じ

【学びに向かう力、人間性等】下記表と同じ

科目 体育 の目標：自分で考えて体を動かし、他者と関わりながら健康に生きる力を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動や健康に関する基礎的な知識を理解し、各種の運動を適切に行う技能を身につける。 ・握手のスポーツのルールや戦術の理解 ・基本的な運動技能の習得 ・健康、安全に関する知識（ケガの予防等）	自分や仲間の課題を見つけ、解決に向けて工夫できる力を育てる。 ・自分の体力や技能に応じた運動の選択 ・チームでの戦術的な判断 ・仲間と協働し、考える力	主体的に運動に取り組み、社会性や公正さを養う。 ・フェアプレー精神やルール遵守 ・仲間への配慮や協力 ・生涯にわたり運動に親しむ態度

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期 ・ 2 学 期	単元 バドミントン ルール理解と基本技能の取得、発揮 状況に応じた戦術的判断と協働的な意思決定 積極的、協力的に取り組む種瀬とフェアプレー精神	・指導事項 サーブ、レシーブ、スマッシュ、クリア等のショットの基本動作 ゲームの中で基本動作を実践 ・一人1台端末の活用 ロイロノートでの映像共有等	【知識・技能】 基本技能の取得、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	12
	単元 テニス ルール理解と基本技能の取得、発揮 状況に応じた戦術的判断と協働的な意思決定 積極的、協力的に取り組む種瀬とフェアプレー精神	・指導事項 サーブ、リターン、カット等のショットの基本動作 ゲームの中で基本動作を実践 ・一人1台端末の活用 ロイロノートでの映像共有等	【知識・技能】 基本技能の取得、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	6
	単元 ソフトボール ルール理解と基本技能の取得、発揮 状況に応じた戦術的判断と協働的な意思決定 積極的、協力的に取り組む種瀬とフェアプレー精神	・指導事項 パス、キャッチ、バッティング、守備の基本動作 ゲームの中で基本動作を実践 ・一人1台端末の活用 ロイロノートでの映像共有等	【知識・技能】 基本技能の取得、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	6
	単元 柔道 ※選択 伝統的な動き、技、礼法の理解と実践 相手との関係の中で適切に判断し、工夫する力	・礼法、受け身、体さばき等 ・動画コンテンツ、端末を用いて自己の動きを撮影し、課題を捉え、解決させる	【知識・技能】 伝統的の礼法および基本技能の取得、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	
	単元 剣道 ※選択 伝統的な動き、技、礼法の理解と実践 相手との関係の中で適切に判断し、工夫する力	・礼法、基本動作 ・動画コンテンツ、端末を用いて自己の動きを撮影し、課題を捉え、解決させる	【知識・技能】 伝統的の礼法および基本技能の取得、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	21
	単元 ダンス ※選択 動きの基礎と表現技術の習得 創造的に表現し、意図を伝える力	・リズムをつかむ、基本ステップ 創作ダンス 発表会 ・一人1台端末の活用 ロイロノート 動画コンテンツ	【知識・技能】 リズムに合わせる動き、ステップの習得 【思考・判断・表現】 テーマや音楽に応じた動きの工夫、意図のある表現方法 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と協力的な活動	○	○	○	
	単元 水泳 泳法の理解と技能の習得、安全な実践 自己の課題を見つけ、改善する力 安全意識と積極的な参加	・泳法 平泳ぎ、バタフライ ・自分の泳ぎの課題を把握させる	【知識・技能】 泳法の取得、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	4
	単元 体育理論 スポーツが人と人をつなぐ理由を考える ・ルールの順守、スポーツマンシップ	・教材 新高等保健体育 新高等保健体育ノート ・一人1台端末の活用 ロイロノート 各単元動画コンテンツ他	【知識・技能】 スポーツの意義、歴史、社会的役割の理解 【思考・判断・表現】 学んだ知識をもとに自分の考えを持てる 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に取り組んでいるか	○	○	○	4

3 学 期	単元 体づくり運動 ・ペースランニング ・記録測定会	・指導事項 持久系の運動を重点的に行う ・教材 ワークシートを用いてペース等の意識づけと目標達成、さらなる記録向上を目指す	【知識・技能】 運動の効果や方法を理解しているか 適切な動きができているか 【思考・判断・表現】 自分に合った運動を選んでいるか 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に取り組んでいるか	○	○	○	7
	単元 柔道 ※選択 伝統的な動き、技、礼法の理解と実践 相手との関係の中で適切に判断し、工夫する力	・基本動作から応用技、実践的な技の連携、攻防の成立 ・動画コンテンツ、端末を用いて自己の動きを撮影し、課題を捉え、解決させる	【知識・技能】 基本技能の取得から技の発展、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	
	単元 剣道 ※選択 伝統的な動き、技、礼法の理解と実践 相手との関係の中で適切に判断し、工夫する力	・基本動作から応用技、実践的な技の連携、攻防の成立 ・動画コンテンツ、端末を用いて自己の動きを撮影し、課題を捉え、解決させる	【知識・技能】 基本技能の取得から技の発展、事故防止や安全確保の知識 【思考・判断・表現】 自分の課題を見つけ、改善方法を考え実践する 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と仲間との協力	○	○	○	8
	単元 ダンス ※選択 表現活動への積極性と協働性	・人数を増やしての創作ダンス、発表会 ・一人1台端末の活用 ロイロノート 動画コンテンツ	【知識・技能】 リズムに合わせる動き、ステップの習得構成とその理解 【思考・判断・表現】 テーマや音楽に応じた動きの工夫、意図のある表現方法 【主体的に学習に取り組む態度】 積極性と協力的な活動	○	○	○	
	単元 体育理論 ・運動の効果 ・トレーニングの原則 ・安全な運動の方法	・教材 新高等保健体育 新高等保健体育ノート ・一人1台端末の活用 ロイロノート 各単元動画コンテンツ他	【知識・技能】 スポーツの意義、歴史、社会的役割の理解 【思考・判断・表現】 学んだ知識をもとに自分の考えを持てる 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に取り組んでいるか	○	○	○	2
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： （1組： 氣田・佐々木） （2組： 氣田・佐々木） （3組： 氣田・佐々木） （4組： 氣田・佐々木） （5組： 氣田・佐々木） （6組： 氣田・佐々木）

使用教科書： （ 実教出版 新 家庭基礎 気づく力 築く未来 第一学習社 2026 最新 生活ハンドブック〇 ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解していると共に、それらにかかわる技能を身に付ける。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に実現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践する態度及び力を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章 自分らしい生き方と家族 【知識及び技能】 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題について考える。 ・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・「大人」と自分を比較し、不足している点を考える。 ・青年期の特徴について学ぶ。 ・「家族」の条件とは何か考える。 ・家族が抱える問題を踏まえ家族を支える仕組みについて具体的に考える。 ・家族に関する法律の資料を見ながら考えをまとめて話し合う。	【知識・技能】 自分自身や人の一生について考えをまとめることができる。将来を見通した人生設計への課題を見つけることができる。青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。結婚、家族・家庭の多様化や、時代と共に変化する役割について理解できる。家族に関する法律について知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢化、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら自分の生活や将来について考えを深めることができる。家族・家庭に関する課題・問題点について、レポート等で表現することができる。 家族の変遷や家族に関する意識の変化、現在の家族の抱える問題・課題などについて、情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて意欲をもって取り組もうとしている。男女共同参画社会など現在の社会状況について、興味をもって知ろうとする態度がある。結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかかわっているのか、興味関心を持とうとしている。家族、家庭生活に関する法律について興味関心を持ち、家庭生活と法律との関係について理解しようとしている。	○	○	○	6
第8章 消費行動を考える 第9章 経済的に自立する 【知識及び技能】 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる 【思考力、判断力、表現力等】 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 ・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。	【知識及び技能】 消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身に付けている。 消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。 【思考力、判断力、表現力等】 多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。 消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかわりについて積極的に理解しようとする。	○	○	○	6
第5章 食生活をつくる 【知識及び技能】 ・日本の食の現状を知る。 ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれている食品についての基礎的な知識を身に付ける。	・食生活の現状を知り、日本と、自分自身の食生活の問題点について気付く。 ・栄養素の種類と働き、それを含む食品について基礎的な知識を身に付ける。 ・栄養計算、食事摂取基準を理解する。	【知識及び技能】 ・日本の食の現状について理解し、自分の食生活と照らし合わせて考えることができる。 ・栄養素、食品に関する科学的な知識や調理の技術を身に付け、実践することができる。 ・1日に必要な各種栄養素及び食事摂取量を理解する。				

	<p>ける。食品の特性、食品衛生について理解し、基礎的な調理技術を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品表示の意味を理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活を把握し、心身共に健康に生活するための今後の課題について考える。 基本的な献立から、自分や家族に合った献立へ工夫することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食における課題を自分のこととしてとらえ、食生活を改善につなげようとする。 調理実習に主体的に取り組み、配膳やマナーに配慮することができる。 	<p>し自分の食事の内容について意識することの重要性を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品表示のルールや記載内容を理解する。 調理実習を通して、調理の基礎的技術を習得し、配膳やマナーを実践する。 食の安全安心に考慮した食生活を送ることができるようになる。 	<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の食の現状について新聞にまとめ、発表、意見交換ができる。 調理実習において作業の流れを判断しながら完成を想像しながら取り組むことができる。 調理実習において振り返り、自分の生活に生かすことができる。 食品表示を理解し、自分に合った加工食品が何か考えることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の食生活について関心を持ち、自分や家族の日常の食について改善、向上に努めようとする。 調理実習に主体的に取り組むことができる。 	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	<p>生活課題の発見と解決（ホームプロジェクトの実践）</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>家庭総合で学んだことを元に、生活課題を見つける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>各自の生活課題について考察し、解決方法を考える。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>主体的、自主的に学習に取り組んでいる。</p>	<p>・家庭科の学習を生かして、自分の生活を見つめなおす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけた課題の解決方法を考え、将来の自分の生き方とどうつなげていくか考える。 人の発表を聞き自分の生活に役立つヒントを発見する。 	<p>【知識及び技能】</p> <p>家庭科で学んだことを理解し、課題解決のために計画を立て実践することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>自分の生活を客観的に見つめることができ、課題を見つけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践した内容についてまとめ、発表することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>自立に向けて家庭科で学んだ技術や知識を使って主体的に問題解決に取り組もうとする。</p>	○	○	○	6
	<p>第2章 子どもとのかかわる</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>子どもを生み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親の家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>主体的、自主的に学習に取り組んでいる。</p>	<p>・育児を学ぶ意義について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。 子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 子どもの食生活・衣生活、安全管理について学び、子どもとかわるようになる。 	<p>【知識・技能】</p> <p>子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。</p> <p>生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。</p> <p>子どもの発達段階において、子どもをとりまく人とのかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>子どもの心身の発達、現在の子どもの取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。</p> <p>子どもの生活やとりまく環境、また、現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。</p>	○	○	○	10
2学期	<p>第5章 食生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品ロスについての現状を理解する。 環境に配慮した調理について考え、実践することができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の食品ロスへの具体的な取り組みについて。 食の安全と環境への配慮について考える。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>主体的、自主的に学習に取り組んでいる。</p>	<p>・食と環境についての関連を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地産地消への取り組み、食の安全性について理解し、考える。 環境に配慮した調理、食品ロスを考えた調理を実践する。 	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食と環境についての様々な取り組みを理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した献立と調理技術を考えることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の食生活と結び付けて考えることができる。 	○	○	○	6
	<p>第7章 住生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。日本の住まいの変遷、生活様式などを理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。健康な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。住宅のバリアフリーやユニバーサルデザインについて 	<p>・生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 住まいの変遷から現代の暮らしに生かすことができる和の住文化を考える。 ライフステージや住まう人の住欲求によって平面計画が変化することを理解する。 平面図を具体的に読み取り検証し、そこでの生活をシミュレーションする。 安全で安心に暮らすための備えや予防の重要性について理解する。 室内環境と健康のかかわりを考える。 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住居の機能と生活とのかかわりについて理解し、避難所やホテルがなぜ住居ではないかなど説明ができる。住まいの変遷と生活様式の変化について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフステージや住む人の住欲求によって平面図が変化することを理解し、平面図を読み取ることができる。様々な部屋の間取りからそこでの生活を考え、想像することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフステージに応じた住生活の計画を積極的に考える。健康な住まいについて具体 	○	○	○	6

	<p>ユーザーインターフェース/UXについて考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・住生活に関心を持ち、将来の住まいについて考えようとしている。</p>	<p>へる。</p>	<p>型別に考える。健康時の住まいについて具体的に考え、自分の生活と比較検討することができる。</p>				
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	<p>第6章 衣生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】 目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。</p>	<p>・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。 ・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。 ・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び自分たちができることを考える。</p>	<p>【知識及び技能】 衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。 材料の選択、日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 刺し子のエコバッグ製作を通し、基本となる法ゼ技術を身につけ、環境問題とリンクさせて考えることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。現在の衣生活を取り巻く状況について自分の衣生活を振り返りながら課題を導き出すことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 基礎縫いの確認のための実習に積極的にとりくもうとする。</p>	○	○	○	8
	<p>第3章 高齢者とかかわる 第4章 社会とかかわる</p> <p>【知識及び技能】 ・高齢者、高齢社会の現状と課題について理解する。高齢者の心身の特徴を理解し、日常生活の中で手助けできる介助の技術を身につける。介護保険制度について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・高齢期の心身の変化による生活行動の不安に気づき、改善方法を考える。要介護の高齢者に対して必要な心がけを理解する。高齢者介護をめぐる課題の解決について考える。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 高齢期を身近なこととらえ、相手の立場に立って主体的に学習に取り組む。さらに自分の将来像として考えることができる。</p>	<p>・高齢社会の現状について理解する。 ・高齢者のイメージをまとめ、高齢者疑似体験を通し、実際の高齢者の心身の特徴を知り、生活について考える。 ・高齢者の日常生活を手助けできる介助について考え、技術を体験する。 ・高齢者のいる生活において、安全、安心に必要なことについて考える。 ・日本の介護保険制度について理解する。</p>	<p>【知識・技能】 ・高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴について正しく理解している。 ・日本の介護保険制度について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・高齢社会の現状と高齢者の生活環境を考え、情報を収集し、その課題と改善について意見を交換したり、発表することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・高齢者の生活に関心を持ち、課題を見つけその解決について主体的に考え、意欲的に学習に取り組んでいる。</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							70

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第3学年 1組～6組
 教科担当者：(1組：加藤) (2組：石井) (3組：石井) (4組：福永) (5組：福永) (6組：石井)
 使用教科書：(精選論理国語 東京書籍)

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 時 数
			語・	書	読					
1 学 期	A 学問のまなざし 評論『『リスク』と『リスク社会』』 神里達博 【知識及び技能】 接続詞などの語を踏まえ、文章の構成を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の意見と引用を適切に読み取り、それぞれの内容を自分でまとめる。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の生活に密接に関連する文章に、興味関心を持って取り組む。	・指導目標をもとに、板書やPowerPoint、プリントなどを利用して説明する。 ・教科書および関連する評論文の抜粋を、大学入試の傾向を踏まえて使用する。 ・作品に出てくる社会的事件についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 接続詞などの語を踏まえ、文章の構成を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の意見と引用を適切に読み取り、それぞれの内容を自分でまとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の生活に密接に関連する文章に、興味関心を持って取り組むことができる。	○	○	○	7
	定期考査		○	○			○	○		1
	B 言語を再考する 評論「言語と記号」 丸山圭三郎 【知識及び技能】 言語論についての抽象的な内容を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文中での抽象的な内容に、自身で具体例を考えて周囲に説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 非日常的な視点を有する抽象的な文章に、興味を持って取り組む。	・指導目標をもとに、板書やPowerPoint、プリントなどを利用して説明する。 ・教科書および関連する評論文の抜粋を、大学入試の傾向を踏まえて使用する。 ・作品に出てくる人文学的な用語についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 言語論についての抽象的な内容を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文中での抽象的な内容に、自身で具体例を考えて周囲に説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 非日常的な視点を有する抽象的な文章に、興味を持って取り組むことができる。	○	○	○	7
	定期考査		○	○			○	○		1
	C 入試問題演習 副教材『現代文 共通テスト+センター試験 国語過去問題』尚文出版 「江戸の妖怪革命」 香川雅信 【知識及び技能】 文章をすばやく適切に読み取る。 【思考力、判断力、表現力等】 複数の文章について、比較して内容を捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 テレビや娯楽で馴染みのある妖怪について、学術的な視点から論じた文に、関心を持って取り組む。	・指導目標をもとに、板書や副教材を利用して説明する。 ・大学入試希望者が多いため、入試で用いられた文章をすばやく適切に読む練習を、タイマーを用いて行わせる。 ・作品に出てくる人文学的な用語についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○		【知識及び技能】 文章をすばやく適切に読み取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 複数の文章について、比較して内容を捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 テレビや娯楽で馴染みのある妖怪について、学術的な視点から論じた文に、関心を持って取り組むことができる。	○	○		5
	定期考査		○	○			○	○		1
	D 困難な時代に 「社会の壊れるとき 知性的であるとはどういうことか」 鷲田清一 【知識及び技能】 平易な語りで叙述しつつも、逆説的にも見える特徴的な論の展開を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「摩擦」の絶えない現代においてどのように生きるか、その可能性を協議する。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な問題でも社会問題でもある内容に対して、広い視野を持つようとする。	・指導目標をもとに、板書やPowerPoint、プリントなどを利用して説明する。 ・教科書および関連する評論文の抜粋を、大学入試の傾向を踏まえて使用する。 ・作品に出てくる社会的事件についてなど、適宜通信機器を利用させ、調べ学習や発表授業を行う。	○	○	○	【知識及び技能】 平易な語りで叙述しつつも、逆説的にも見える特徴的な論の展開を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 「摩擦」の絶えない現代においてどのように生きるか、その可能性を協議することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な問題でも社会問題でもある内容に対して、広い視野を持つようすることができる。	○	○	○	8
	E 入試問題演習 副教材『現代文 共通テスト+センター試験 国語過去問題』尚文出版	・指導目標をもとに、板書や副教材を利用して説明する。 ・大学入試希望者が多いため、入試				【知識及び技能】 文章をすばやく適切に読み取ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】				

年間授業計画

高等学校 令和 8 年度

3 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 英語コミュニケーション3

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 英語コミュニケーション3

対象学年・組： 第3学年 1組～6組

教科担当者：（1組 入江彰）（2組 入江彰）（3組 入江彰）（4組 秋山英恵）（5組 入江彰）（6組 秋山英恵）

使用教科書： Heartening English Communication 3

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等： 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等： コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 英語コミュニケーション3 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文章を理解できる。題材についての発話を聞き取ることができる。幅広い話題について言語活動を行うことができる。	教科書で学んだ文法・語彙の知識を応用し、専門分野を含む幅広い話題について、議論や発表ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時間
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～5 記録文 説明文 論証文 意見文	○	○	やり取り ○	○	聞くこと：自然な速度や多様なアクセントで話される英語を聞き取ることができる。幅広い領域における抽象的で複雑な話題について要点を理解することができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉え、英和辞典を参照すれば正確に読み取ることができる。抽象的で複雑な文章を理解でき、筆者の意図を考察できる。	○	○	○	36
	発表 ○									
	1 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
2 学期	Lesson 6～10 説明文 論証文 記録文と説明文	○	○	やり取り ○	○	話すこと（やり取り）：相手が母語話者であっても緊張せず普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然な会話ができる。相手の意見を聞いた上で自らの主張を述べ、議論ができる。 話すこと（発表）：自分の専門分野についての説明ができる。教科書の題材に限らず幅広い話題について論理的に意見を発表できる。	○	○	○	42
	発表 ○									
	2 学期定期考査	○	○		○		○	○		1
3 学期						聞くこと：自分の専門分野の技術的な議論も含め、幅広い話題について英語として自然な文脈で複数パラグラフで適切に構成された文章を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)				
	学年末考査									
							配当時間合計			81

年間授業計画

高等学校 令和 8 年度

3 学年

教科： 外国語（英語）

科目： 論理表現3

3 単位

教科： 外国語（英語） 科目： 論理表現3

対象学年・組： 第3学年 1組～6組

教科担当者：（1組 吉川彰規 ）（2組 秋山英恵 ）（3組 吉川彰規 ）（4組 渡邊敦子 ）（5組 秋山英恵 ）（6組 渡邊敦子 ）

使用教科書： Vision Quest English Logic and Expression 3

教科（外国語（英語））の目標：

- ①知識及び技能： 外国語で読む、書く、聞く、話すの4技能を中心とした統合的な言語活動を行うことができる。
- ②思考力、判断力、表現力等： 論理の構成や展開を考察して的確に把握でき、情報や考えをまとめて論理的に表現できる。
- ③学びに向かう力、人間性等： コミュニケーションの技能を磨き論理的思考を習得するために積極的な姿勢で学習できる。

科目 論理表現3 の目標

①知識及び技能	②思考力、判断力、表現等	③学びに向かう力、人間性等
教科書で学んだ文法・語法を十分に理解している。多様なアクセントの発話を聞き取り要点を理解できる。流暢な発音ができる。	教科書で学んだ知識を元に専門分野を含む幅広い話題についての発話を聞き取り要点を理解できる。複数段落の英作文ができる。	教科書を予習することにより積極的に授業に参加し、復習や課題によって言語の習得に前向きに取り組む。

	単元の具体的な指導目標	領域				評価規準	目標			配当時数
		聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		①	②	③	
1 学期	Lesson 1～4 文法・語法問題の演習 リスニング 英作文	○	○	やり取り ○ 発表 ○	○	聞くこと：自然な速度や多様なアクセントで話される英語を聞き取ることができる。幅広い領域における抽象的で複雑な話題について要点を理解することができる。 読むこと：教科書の文章の要点を捉え、英和辞典を参照すれば正確に読み取ることができる。抽象的で複雑な文章を理解でき、筆者の意図を考察できる。	○	○	○	36
	1 学期定期考査	○	○		○	○	○		1	
2 学期	Lesson 5～8 文法・語法問題の演習 リスニング 英作文	○	○	やり取り ○ 発表 ○	○	話すこと（やり取り）：相手が母語話者であっても緊張せず普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然な会話ができる。相手の意見を聞いた上で自らの主張を述べ、議論ができる。 話すこと（発表）：自分の専門分野についての説明ができる。教科書の題材に限らず幅広い話題について論理的に意見を発表できる。	○	○	○	42
	2 学期定期考査	○	○		○	○	○		1	
3 学期						聞くこと：自分の専門分野の技術的な議論も含め、幅広い話題について英語として自然な文脈で複数パラグラフで適切に構成された文章を作ることができる。 (CAN-DOリストによる)				1
	学年末考査									
							配当時数合計			81

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 公民 科目 政治・経済

教科：公民

科目：政治・経済

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～6組

教科担当者：（1組：青野） （2組：青野） （3組：青野） （4組：青野） （5組：青野） （6組：青野）

使用教科書：（高等学校 政治・経済（第一学習社）、最新政治・経済資料集2024（第一学習社）、政治・経済ノート（第一学習社））

教科 公民

の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる知識や理論、及び政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に抽出できる。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に理論などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断して、合意形成や社会参画を視野に入れながら自らの意見を展開できる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の有為な形成者として、よりよい社会の実現を求めて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 政治・経済

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる知識や理論について理解するとともに、諸資料から、主権者として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けられるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や歴史的事実を学び、生徒が主権者として、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を実現するために必要な知識や技能の習得を支援する。	より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、主権者として、自国を愛すとともに、自他の違いを認め、他国の文化も尊重できる多文化共生を受容できる寛容さの育成に努める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	日本国憲法と現代政治のあり方 政治や法を理解する基本的な用語や理論を学び、法の支配と立憲主義、基本的人権や新しい権利、義務の概念や意味とその背景について理解する。	・政治と法の意義と機能 ・法の支配と立憲主義 ・基本的人権 ・新しい人権 ・権利と義務	【知識・技能】 ・政治における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、理解する。 【思考・判断・表現】 ・政治における基本的原理である民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・政治における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	日本国憲法と現代政治のあり方 日本の政治機構に影響を与えている議院内閣制や大統領制のシステムの基本的な用語や理論を学び、国会や内閣、裁判所等の統治機構についての理解を深める。	・議会制民主主義と世界の政治体制 ・国会の組織と立法 ・内閣の機構と行政 ・裁判所の機能と司法制度	【知識・技能】 ・議院内閣制や大統領制のシステムの基本的な用語や理論を学び、国会や内閣、裁判所等の統治機構について理解している。 【思考・判断・表現】 ・議院内閣制や大統領制、国会や内閣、裁判所等の統治機構についてのあるべき姿とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・議院内閣制や大統領制、国会や内閣、裁判所等の統治機構についてのあるべき姿とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	6
	望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 民主主義の学校である地方自治の本質について学び、主権者として政党の特色や政策の違い、政治の力学などを理解させ、選挙権を行使できるようにする。	・地方自治制度と住民の権利 ・政党政治と選挙	【知識・技能】 ・民主主義の学校である地方自治の本質についてのあるべき姿とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【思考・判断・表現】 ・地方自治制度と住民の権利、政党政治と選挙のあるべき姿とそれらを実現する上での課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・地方自治制度と住民の権利、政党政治と選挙についてのあるべき姿とそれらを実現する上での課題について、主体的に追究している。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1	
2 学 期	市場経済の機能と限界 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害、消費者問題の知識と理論を、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解させる。	・経済活動と市場 ・経済主体と経済循環 ・国民経済の大きさと経済成長 ・物価と景気変動 ・市場の失敗と公害・消費者問題	【知識・技能】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害・消費者問題の考え方と課題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害・消費者問題などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、市場の失敗と公害・消費者問題などについて、主体的に追究している。	○	○	○	7
	持続可能な経済活動と福祉の向上 ・財政や金融の仕組みと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方の知識と理論を、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解させる。	・財政のしくみと租税の意義 ・金融のしくみと働き ・日本経済の変化と中小企業、農業問題 ・労使関係と労働問題 ・社会保障制度と福祉のあり方	【知識・技能】 ・財政のしくみと租税の意義、金融のしくみと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方などについて、理解している。 【思考・判断・表現】 ・財政のしくみと租税の意義、金融のしくみと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・財政のしくみと租税の意義、金融のしくみと働き、日本経済の変化と中小企業、農業問題、労使関係と労働問題、社会保障制度と福祉のあり方などについて、主体的に追究している。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	現代日本の諸課題の研究 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等における社会保障、地域社会の自立と政府、過労死を防ぐ多様な働き方、生き方を可能にする社会等の現代日本の諸問題について実際の社会生活の事象とも関連させながら理解させ、主権者の一人としてどう対応すべきか考えさせる。	・格差の理由とその対策 ・少子高齢社会における社会保障 ・地域社会の自立と政府 ・多様な働き方、生き方を可能にする社会 ・産業構造の変化と起業 ・市場経済と経済運営 ・歳入歳出面での財政健全化 ・食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 ・防災と安全、安心な社会の実現	【知識・技能】 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等の現代日本の諸問題について理解している。 【思考・判断・表現】 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等の現代日本の諸問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・格差の理由とその対策、少子高齢社会における社会保障、地域社会の自立と政府、多様な働き方、生き方を可能にする社会等の現代日本の諸問題について、主体的に追究している。	○	○	○	14

3 学 期	定期考査			○	○		1
	授業なし						
						○	0
	定期考査			○	○		合計 52

